

令和3年12月9日

令和3年度
第1回総合教育会議
議事録

文京区

令和3年度第1回総合教育会議議事録

日時：令和3年12月9日（木）午後1時10分

場所：第1委員会室（Web会議）

「出席」	文京区長	成澤廣修
文京区教育委員会	教育長	加藤裕一
	教育長職務代理者	清水俊明
	委員	田嶋幸三
	委員	坪井節子
	委員	小川賀代
「説明のために出席した区職員」	企画政策部長	大川秀樹
	企画政策部参事・	新名幸男
	企画課長事務取扱	
「説明のために出席した教育局職員」	教育推進部長	八木茂
	教育総務課長	松永直樹
	教育指導課長	赤津一也

令和3年度 第1回総合教育会議次第

日時：令和3年12月9日（木）午後1時10分

場所：第1委員会室（Web会議）

1 開会

2 議題

（1）コロナ禍における学びの保障～ICT教育の推進について～ （資料第1号）

3 閉会

1. 開会

(13:10)

○成澤区長 それでは、令和3年度第1回の総合教育会議を開会いたします。

2. 議題

(1) コロナ禍における学びの保障～ICT教育の推進について～

○成澤区長 本日は、「コロナ禍における学びの保障～ICT教育の推進について～」を議題とさせていただきます。

ご案内のとおり、コロナ禍の中で感染症対策と子どもたちの学びの保障を両立するということが求められております。

本日は、教育局から、学びの保障に向けた取り組みの一つとして、文京区におけるICT教育の現状を報告させていただきます。

その後、先生方からご意見を頂戴して議論を進めてまいりたいと思います。

それでは、コロナ禍における学びの保障について、教育指導課長から説明をお願いします。

○教育指導課長 私から、資料第1号に基づきまして、「コロナ禍における学びの保障～ICT教育の推進について～」のご説明をさせていただきます。

まず1「コロナ禍における学びの保障」として、教育計画の見直しやICTによる柔軟な対応が可能となるよう準備を進めているところでございます。

2『Society5.0の教室』プロジェクトの実施」でございまして。児童・生徒に一人一台ずつ配備されましたタブレット端末やICT機器を活用し、Society5.0時代の到来を見据えた新しい授業スタイルを創造することを目的に進めておりまして、特に今年度につきましては、四角囲みのところに書いてございますように、令和3年度のコロナ禍における学びを保障するICTを活用した授業に取り組む教員の先行実践の共有を行い、活用を進めているところでございます。

3「ハイブリッド授業の実現」については、新しい授業スタイルの一つとして、対面授業と遠隔オンライン授業を同時に行うハイブリッド授業の実現に取り組んでいるところでございます。

右側に移っていただきまして、4「ICTを活用した授業の実践事例」として、ここでは、小学校1年生活科「きれいにさいてね」というものを取り上げてございます。この授業のねらいは朝顔の観察等を通して植物に心を寄せ、大切に育ていくことができるようにすることを目的とした授業でございまして、授業の工夫でございまして、真ん中に書いてありますように、朝顔を観察して気

づいたことをカードに書きあらわす、そして共有フォルダでカードを共有し、異なる視点に気づいたり、自分の考えを深めたりできるようにしているところがございます。

一番下にありますように、登校することが不安な児童に対しては、保健室から授業に参加できるよう養護教諭と連携をし、準備を進め、事前に友達が撮影した写真を My ボード（ノート）に送って、他の児童と同じ状況をつくり、気づいたことをカードに書くこと、カードが書けたらスライドにまとめて提出することを伝えて授業を進めたところがございます。

実際の児童の様子でございますが、2点目に記載をしていますとおり、カードを写真とつなげてスライドにまとめ、提出 BOX（共有フォルダ）で共有をし、意見を比較したり、新しい視点に気づいたりしておりました。また、必要に応じて友達の写真やカードを別の児童のスライドにつけ加えて活動を行っていることもございました。

成果といたしましては、一番下のところ、種の観察から継続して使用し、これまでに撮影した写真やカードを関連づけて振り返ることができておりました。

課題といたしましては、子どもの操作時間を確保し、友達の意見と比較したり、新しい視点に気づいたりする活動を充実させていくことだと考えてございます。

私からのご説明は以上でございます。

○成澤区長 コロナ禍における学びの保障ということで、現在、文京区の現場において活用されている事例等をご紹介いただきました。

それでは、教育委員の先生方からご意見がございましたら、ご発言をお願いいたします。

○坪井委員 幾つか質問させていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

今、ここに理科の案が出てきていますが、他の科目でも使われていると思います。現在、このコロナ禍の学習状況で ICT を使う授業が全体のどのくらいの割合になっているのかということをお教えいただけますでしょうか。対面授業として ICT を使わない授業と、ICT を使う授業がどのくらいの割合になっているのか、一つ伺いたいと思います。

もう一点は、小さいときから本当に ICT に習熟した子どもさんたちが増えていって、大人の想像をはるかに超える形で技術的に習得していくと思います。私たちが到底追いつかなくなるのは目に見えている。現在ですらそうなのですが、すごく心配しているのは、メディアリテラシーの問題です。最近報道されている様々な事件の背景には、中学校のとき、小学校のときに受けたネット被害を受けた子どもたちの引きこもり、さらには、犯罪に至ってしまったような事案もたびたび報道されるようになりまして、メディアリテラシー、被害者にも加害者にもならないための教育が同時に

非常に強く行われなければ間に合わないという気がしています。そのあたり、現場ではこうした ICT の教育とどのような形で子どもたちを守る教育も一緒にしていらっしゃるのか。

その2点について伺いたいと思います。

○成澤区長 それでは、まず、オンライン授業の利用割合等についてお願いします。

○教育指導課長 私から、割合についてですが、どれぐらいの割合ということ进行调查して実態をつかんでいるわけではないので、明確な数字についてのご回答はできませんが、実際のところは、かなり子どもたちが学校で使っている場面を、指導主事や私も訪問した際には拝見しているところでございます。

ただ、一方で、今のこの理科の事例の場合も、最初からすぐにタブレットを使ってカードに記入をするということではなくて、1年生でございますので、まず、実際の紙に書いて、その上で、習熟ができた段階でこういったものを活用することになりますので、今までの授業と併用しながら使っているのが現状でございます。

2点目の情報リテラシー等をどう行っているかということですが、坪井先生ご指摘のとおり、活用に当たってはそういった不適切な書き込み等を行うことによって、相手が嫌な思いをするということも含めて、発達段階に応じて各学校でご指導いただいているところでございます。

○加藤教育長 私のほうも学校に行き様子を見させていただいております。学校によって差がございます。特に中学校ですと、ほぼ1日 ICT を使って授業をやっている、これがないと授業が進まないような学校もあります。

先ほど差があるという話をしましたが、そういった差の中で、使うと有効だということが学校のほうでも認識されていますので、あまり活用のない学校については、授業の中でうまく使っていくということで進んでいるような状況です。

それと、リテラシーの話は、先ほど指導課長がお話ししたように、非常に重要なこととなります。学校でリテラシーを教えるだけではなくて、保護者の同意をとった上で、仕組みとして操作ログとかそういったものをとっています。不適切な扱いがあったときの最後の手段ですが、そういったところもちゃんと解析できるようになっていますし、また、学校だけではやはり限界がありますので、家庭のほうにもお知らせをした上で、家族ともこれについてはしっかり考えていただきたいということで、チェックシート的なものも家庭のほうにお送りさせていただいております。

補足になりますが、そのような状況です。

○成澤区長 ICT 活用の授業ということと、コロナ禍における学びの保障としてのハイブリッド授

業は必ずしもイコールではない。ただ、一人一台パソコンになることによって、ハイブリッドはやらなくても、日常的に ICT 機器を使った授業は、かつてに比べれば増えた、この年度から相当数増えたという理解でいいですよ。

○加藤教育長 はい、そのとおりです。

○坪井委員 ICT を活用するという自体は、この情勢の中で避けがたいとは思いますが、私たちの世代は ICT がなかった時代を知っていて ICT を使うということが出来るのですが、はじめから読み書きもコミュニケーションも ICT を使う脳になってしまう子どもたちが生まれてくるわけですね。私たちが考えている以上に ICT における子どもたちへの浸透というのですかね、精神の構造とか、発達の全てに私たちが考えられないぐらいの浸透があるんじゃないかと思っています。そのことが人間そのものを変えてしまうのではないかとすら不安に思うことがあります。私たちの世代の感覚で危険がわかると思っているレベルでは済まない、変わってしまうんじゃないかぐらいの気持ちがあります。

それを阻止すればいいのか、そうじゃないのかそれもわかりませんが、リテラシー教育といっても現場の先生方すらも恐らくわからないんじゃないかと思う。子どもたちをネット被害から守る、あるいはネット加害者にならないための教育というのは、現場の先生任せでは到底できない。そうしたネットの研究をしている人たちの成果を踏まえ、あるいは講師に呼び、どのような形で子どもたちがネット脳になっていくのか、ネット被害が起きるのか、まだ方法が講じられていないのだと思います。どんな方法が有効かということは、研究段階だと私は思っていますので、先生たちにお任せすることなく、教育委員会が主体となってネットで成長する子どもたちを守るということを研究課題にさせていただきたいなと思っています。

その背景にさらに突っ込むならば、これも古いと言われれば古いんですが、私たちは、教育は人と人との触れ合い、人と人との切磋琢磨によって生まれるものと教育されてきた世代なわけです。その理念すらも変えていくことになるのか。無駄話とか、何でもない時間とか、ぼんやりする時間、そうしたものがなければ教育はできないんだという理念そのものは、教育として維持していくのかというあたりが問われてくるんだろうと思います。全てネットになってしまって、無駄話や人と人の接触がなくなる世代、それを恐ろしいことだと思うのか思わないのか。その辺の哲学から問われていく時代だろうと思っているので、教育委員会としても、教育とは本当は何なのか。ネットの教育と、子どもたち、先生たち、子ども同士が触れ合う教育のバランスというのですか、その重要性を本気で考えなければいけないんじゃないかなと私はとても危機感を持っています。

○小川委員 私も坪井先生と同じことをすごく気にはしています。メディアリテラシーについては、最近いろいろなニュースも出てきているので、ぜひ丁寧に取り扱っていただきたいとまず思っているところです。

質問は、今、GIGA スクール構想ですと、自宅にパソコンを持ち帰るということもやったほうがよいという話があるかと思います。文京区は現在、授業内の紹介は今いただきましたが、宿題とかそういったものの中にもこういう ICT 活用を入れているのかどうかという現状を、小学校、中学校それぞれについて教えていただければと思います。

○教育指導課長 実際には、各学校の状況もありますけれども、できる学校については、持ち帰りをして家庭学習を課している学校もございます。具体的に、この中にドリルも入ってまして、このドリルを家庭で行うように指示をして実践している学校もあることは事実でございます。

また、実際にデジタル教科書を導入してモデルで実施している学校もございまして、そういった学校ではデジタル教科書を使って、実際に読み書きをする練習を課しているところもございます。

○小川委員 そうすると、持って帰ったりすると、インターネットも使えるようなことになっているかと思います。利用制限をすることが可能かと思いますが、利用制限みたいな設定はどういう状況になっているのかも教えていただけますか。

○教育指導課長 制限については、具体的には現在は課していないところです。様々なご家庭、お子さんがいる状況の中で、一定の時間の中だけで活用すると、逆に使いにくいご家庭もあるので、そういった部分では、今は課していませんけれども、状況を見ながらですね。

○加藤教育長 利用の制限はしてないけど、フィルターみたいな……。

○教育指導課長 時間の制限はしてないですけど、当然フィルターの制限をかけている状況でございます。

○小川委員 もう一つ、Teams を使われているかと思いますが、Teams だと、共同作業の中でチャットを使うことが可能になるかと思います。ここ最近の事件では、このチャットの機能のところで子どもたちの中で傷つけ合ってしまうようなことがかなりあったかと思います。学校で現在使っている Teams のチャットは、担任の先生が常に見れるような状況で使用されているのか。それとも、本当に子どもたちの交流の場みたいな感じにできてしまっていて、先生は基本的に見ないよ、みたいな形で運用しているのか。その辺のことまでちゃんと気を配って設定されているかどうかということをお教えください。

○教育指導課長 今ご指摘のありましたチャット機能につきましては、先生が入っていない状況で

子どもたちだけで使用することについては制限をかけている状況でございます。

○成澤区長 子どもたちだけでは使えないということですね。

○小川委員 いろいろたくさん聞いてしまいましたが、使い始めで先生たちもまだ慣れてなくて、機能も、管理者側でどこまで制限ができて、どこから制限ができないかとか、そういったことも現場の先生はなかなか理解してきてない部分もあるかと思っておりますので、教育委員会のほうで、ある程度、こういうことまでできるんですよ、こういう制限もできるんですよ、こういう自由の制限の中でこんなふうに子どもたちの学びが活性化できますよということの発信もやっていただけるといいかなと思っております。よろしくをお願いします。

○成澤区長 保護者の皆さんたちも、メディアリテラシーとか、持ち帰ってきたものの使い方とか、ご心配される方もいらっしゃると思います。ID とパスワードの変更が簡単にできるのかとか、色々な問い合わせがあるんだろうと思いますが、何となくその辺を説明しておいていただいたほうがいいんじゃないですか。

○教育指導課長 今お話がありましたように、実は保護者には通知を発しておきまして、パスワードについては、それぞれに設定されていて、他の方が見られない状態になって付与していますとか、今言ったチャット機能についても、子どもたちだけではできないということについてはアナウンスしている状況でございます。今言ったような課題が起こらないように保護者にも理解啓発は引き続き行ってまいりたいと思います。

○成澤区長 いわゆる「なりすまし」ができないような形の個別パスワードの設定なので、自分たちで自由に変更したりして、ほかの子をかたって、なりすまして投稿できないようにはなっていると。

○加藤教育長 この件については、他の自治体で悲しい事件があったということ踏まえて、そういうことができないように、そこはしっかりやっております。

また、保護者にも不安があると思いますので、そういったことも保護者のほうにお手紙でお知らせをしております。

○田嶋委員 ぜひお願いします。ずっと誹謗中傷され続けていますから、ぜひそういうものをなくしていただけるようお願いしたいなと思います。

私は、ICT で体育の授業をどのように展開されているのか伺いたいと思います。

○教育指導課長 実際、体育ではタブレットを使って色々な動きをするときに、それを動画で撮って、後ほどその動画を見て、どういう点がいいのか、またはどういうところを改善すればよりよく

なるのかということで活用している実践がございます。

○成澤区長 学校休校中はどうだったんですかね。ハイブリッドを使って授業実践みたいなことはあったんですかね。

○教育指導課長 動画をつくって、動画を配信して見てもらったということはあります。

○成澤区長 同じようなことをやってくださいと。

○田嶋委員 昨年の1学期とか2学期の、子どもたちの体力があり余ってしまったりというのは僕は問題だと思うし、結構重要なことだと改めて気づかされました。公園でも密になるから遊んじゃいけないとか、色々なときがあったわけで、彼らに運動させることがまず一つ。それから、体育の中でやるものを学ばせるということを ICT の中でも工夫すればできるところがあると思います。

今おっしゃったような動画に対して、それをどう学んでくるのか。それを一対一でできるわけではないですが、どういうふうにするのか、もう少し研究する余地はあるかと思っていますし、今、区長がおっしゃられたように、ハイブリッドでどういうふうにしてやるのかは、難しいようで結構、僕は実際色々な例があるんじゃないかと思っています。

我々サッカー協会も、色々なサッカーの技術をどういうふうにして教えるか、それを使ってやった経緯もありますので、ぜひ研究してやっていただければありがたいと思います。

○清水委員 2点お伺いしたいんですが、今回の取り組みによる教育効果、その評価を今後どのように行っていくかということについて、まず教えてください。

○教育指導課長 実際に評価をどうしていくかということですが、今はコロナ禍において学びを止めないということを最優先に行っていますので、そういった中で実践を各学校にお願いをしているところです。今、田嶋先生からもお話があったようなことも含めて、ハイブリッドでできていくことで、よりよい授業、またはよりよい学習の学びにつなげていくということは、また研究していかなければいけないと思っていますので、そういったところでは、引き続き研究課題として取り上げていきたいと思っています。

○清水委員 例えば試験をやって、その成績を見ての学習効果というのを今までやられていたと思いますが、今回ハイブリッド、ICT を使うことによってプラスアルファの何か良い教育効果が生じているかどうかということの評価も必要ではないかと思いますが、それに関してはいかがでしょうか。

○教育指導課長 学校の実践の中では、先ほど坪井先生にお話ししたように、必ずしも ICT だけでやっているわけではないものですから、実際にそれが ICT による効果なのか、そうではないのかと

いうことの線引きがなかなか評価としては難しいと思っています。

ただ、一方で、ICTを入れたことによって比較対照、同じお子さんでの調査の結果は難しいわけですが、全国学力調査等を行っていますので、引き続きそういったものも分析しながら確認をしていきたいと思います。

○清水委員 恐らく色々なところで、そういった評価法も出てくると思いますので、そのようなものを参考にさせていただければと思います。

もう一点、学びは、学習だけではなくて、そのほか学校で学ばなくてはならないことがたくさんあると思います。そういったところへの対応というのは、今回の話とはちょっと離れるのかもしれないですけども、どのように対応していかれる予定でしょうか。

○教育指導課長 ICTだけではなくて、坪井先生の話にも通じますけれども、人と人のかかわりということは非常に大切なことだと思いますし、そういった中で育まれることもたくさんあると思います。今まではコロナということで制限もいろいろあったわけですが、前回の教育委員会の中でもお話があったと思いますが、運動会とか音楽的な行事といったものも、今は順次行っている状況ですので、このコロナ禍においても、できることは実践を積んでいきたいと思ってございます。

○清水委員 まさに柔軟な対応ということで、そのときのレベルに応じた対策が大切になってくると思いますので、よろしく願いいたします。

○加藤教育長 今いただいた各委員のお話について、ちょっとお話ししたいと思います。

最初、坪井委員のほうから、これからの教育、ICTを活用してどうするんだ、学校教育どうなるんだという話をいただきました。教育では、不易流行、変わらないことと、変えていくこと、この2つが大事だとよく言われています。その不易の部分は、協働的に学ぶ、子ども同士が学ぶ、学校という場で体験を通して学ぶ。この部分は不易で変わらない大切にしていけるものだと思います。片や、多様なお子さんがいますので、流行の部分では、個に合わせた教育、こういったところが重要になってくるのかなと思っております。

そのことは、先ほど田嶋委員の言われた運動の部分も、子ども同士で教え合ったりする中で伸びることが非常に多いと聞いておりますので、そういったところでもこの部分は生かしていく必要があるのかなと思っています。

小川委員のほうで、教員の活用について、しっかり何らかの形で発信してほしいということがありました。これは Society5.0 教室の通信ということで、ICTに長けた教員たちがチームを組んでいて、そこで検討した内容を各学校に随時、通信という形で流すことで共有していますので、さらに

そこは充実していきたいなと思っております。

清水委員の言われた評価の部分は、確かにこれだけで評価というのは難しい部分がありますが、例えば PISA（国際学力調査）のほうで学力がちょっと下がった。日本の中で ICT の活用が進んでいない中でテストの出し方が ICT を使ったものなので、慣れてないから点数が上がらなかったような話もあります。授業の中で使うということと、社会に出たときに ICT 機器は使っていきますので、そういった目でも将来的な部分でどれだけ子どもに有用かというところで、直近の評価ではないですけれども、大きな意味での評価は何年か後に出てくるのかなと思っております。

3 閉会

○成澤区長 学びの保障の面と、ICT 教育の推進の面と、2つの目的で、今後とも現場での実践と教育委員会としてのイニシアチブをしっかりとやっていきたいと思っております。この ICT 教育が進むと、実験等疑似体験するようなこともできますし、また、不登校のお子さんたちに対するアプローチ等にもこのオンライン教育は有効に使えると思いますので、今後とも積極的な対応を進めていくということで教育委員会と区長部局は力を合わせていきたいと思っております。

以上で、令和3年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

(13 : 40)